日本遺伝学会とは

http://gsj3.jp/index.html

日本遺伝学会の前身は“日本育種学会”であり，1920年６月に本学会として正式に成立した。1920年はイギリスの遺伝学会の設立と同じ年に当たっている。2012年８月の普通会員数は829名である。

1928年10月に日本遺伝学会第１回大会が九州帝国大学農学部で開かれて以来，1945年を除き，毎年１回の大会が開催されている。今年は第84回大会を九州大学医学部で開催した。出版物としては，1921年に“遺伝学雑誌”第１巻第１号が出版され，“*Genes & Genetic Systems*”として現在に至っている（2012年，第87巻）。

初代の遺伝学会長は池野成一郎（東京帝国大学農学部教授）であり，その後，田中義麿，木原均，木村資生らが歴任し，2009年からは五條堀孝が第29代会長を務めている。

日本遺伝学会とは

http://gsj3.jp/index.html

日本遺伝学会の前身は“日本育種学会”であり，1920年６月に本学会として正式に成立した。1920年はイギリスの遺伝学会の設立と同じ年に当たっている。2012年８月の普通会員数は829名である。

1928年10月に日本遺伝学会第１回大会が九州帝国大学農学部で開かれて以来，1945年を除き，毎年１回の大会が開催されている。今年は第84回大会を九州大学医学部で開催した。出版物としては，1921年に“遺伝学雑誌”第１巻第１号が出版され，“*Genes & Genetic Systems*”として現在に至っている（2012年，第87巻）。

初代の遺伝学会長は池野成一郎（東京帝国大学農学部教授）であり，その後，田中義麿，木原均，木村資生らが歴任し，2009年からは五條堀孝が第29代会長を務めている。

男女共同参画の推進

http://gsj3.jp/danjyo_ks.html

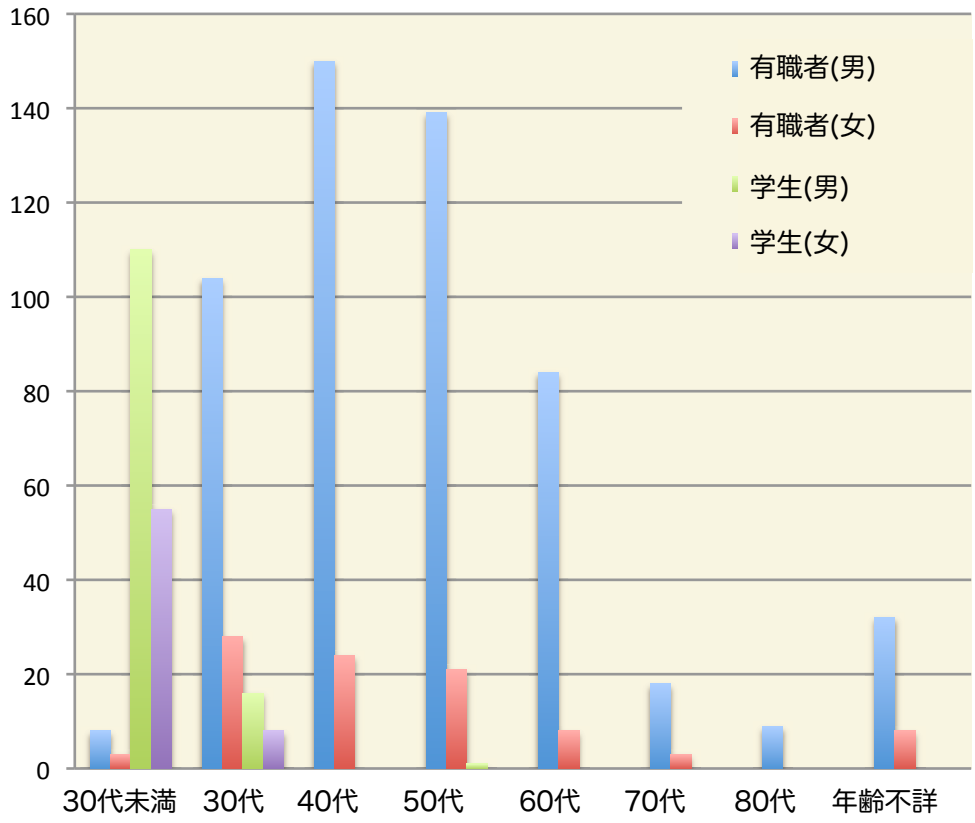
日本遺伝学会では，2007年に男女共同参画推進担当特別幹事をおき，男女共同参画推進特別委員会を設置，同年に男女共同参画学協会連絡会に加盟した。

学会ホームページ内に男女共同参画のページを立ち上げ，随時，活動状況を報告している。学会大会参加に際しての保育や介護への支援，およびランチョンワークショップの開催を継続的に行っている。

男女共同参画推進担当特別幹事
松浦　悦子（お茶の水女子大学）

2012年度男女共同参画推進特別委員会委員
岩瀬　峰代（総合研究大学院大学）
大坪　久子（日本大学）
川岸　郁朗（法政大学）
久原　篤　（甲南大学）
高橋　文　（首都大学東京）
篠原　美紀（大阪大学）
町田千代子（中部大学）

学会員の動向



2012年8月現在，普通会員829名のうち，女性は158名(19%)である。しかし，有職者に占める女性の割合が15%であるのに対して，学生会員では33%と倍以上であり，この格差は年ごとに強まる傾向にある。男女を問わず，若い世代のキャリアアップをいかにサポートするかが，将来に向けての大きな課題であると認識している。

男女共同参画ランチョンワークショップの開催

2008年より「優れた科学の芽を皆でサポートするために」のタイトルの下で開催している。第84回大会では，九州大学男女共同参画推進室と共催し，約70名の参加があった。

日本遺伝学会第84回大会
男女共同参画公開ランチョンワークショップ

9月25日（火） 12:10～13:40
九州大学医学部　同窓会館小講堂

優れた科学の芽を皆でサポートするために
～九州大学の女性支援の実践～

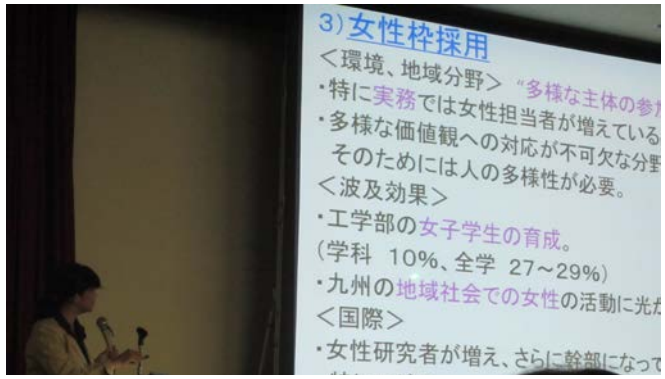
1　はじめに
　五條堀　孝　日本遺伝学会長
2「九州大学における男女共同参画の取り組み」
　樗木　晶子　九州大学男女共同参画推進室長
3「九州大学における女性教員増加策とその成果
　ー『女性研究者養成システム改革加速』事業の実践 ー」
　上瀧恵里子　九州大学研究戦略企画室改革加速事業担当
4　女性研究者支援を受けた立場から
　清野　聡子　九州大学大学院工学研究院環境社会部門
　三浦　佳子　九州大学大学院工学研究院化学工学部門
5　総合討論
6　おわりに
　菊川　律子　九州大学男女共同参画推進担当理事
　中別府雄作　日本遺伝学会第84回大会委員長

先着100名様 ランチ無料
学会員ではない方も歓迎

共 催
日本遺伝学会男女共同参画推進特別委員会
九州大学男女共同参画推進室

今回のワークショップでは，九州大学の女性研究者支援，とりわけ「女性枠」採用について詳しくご紹介いただき，実際にこの支援を受けて着任された先生からもお話をうかがった。

大学として男女共同参画を推進するなかで，「女性枠」採用を進めるにあたってのリーダーシップ，各部局での円滑な実施のための取り組みをうかがい，参加者からは「取り組みの内容がよくわかった。」「支援を受けた方の話が聴けてよかった。」等の感想が，アンケートの回答として寄せられた。



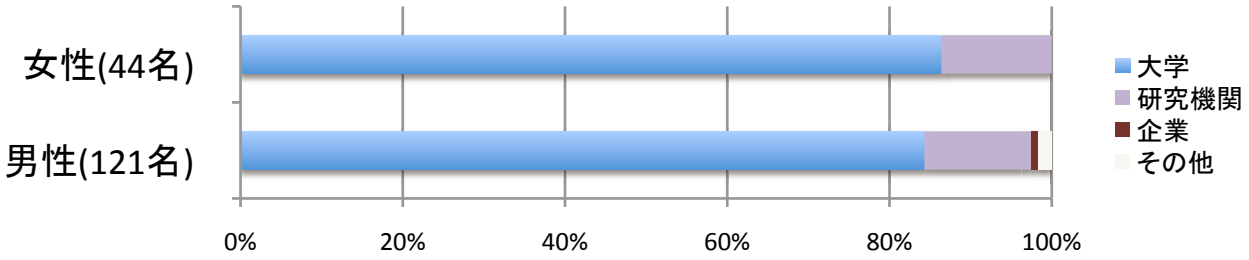
この支援により工学部に採用された教授，准教授の先生から，応募の動機や支援を受けての感想等をうかがった。女性の少ない職場でも，のびのびと活動されていることがうかがえた。若い世代のなかには，このような事業のあることを知らなかった学生，あるいは，「男性枠」もあるべきでは，というような意見も見られたが，実際に極めて厳しい審査を経て優秀な女性研究者が採用されていること，また，その成果を知ることによって，このような取り組みへの理解を広げることができたと思われる。

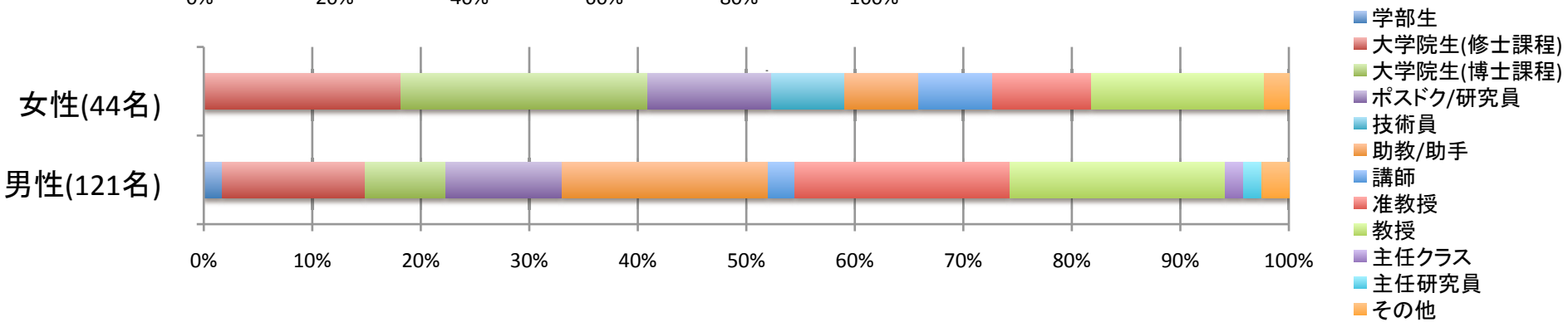
ウェブアンケートによる属性調査の実施

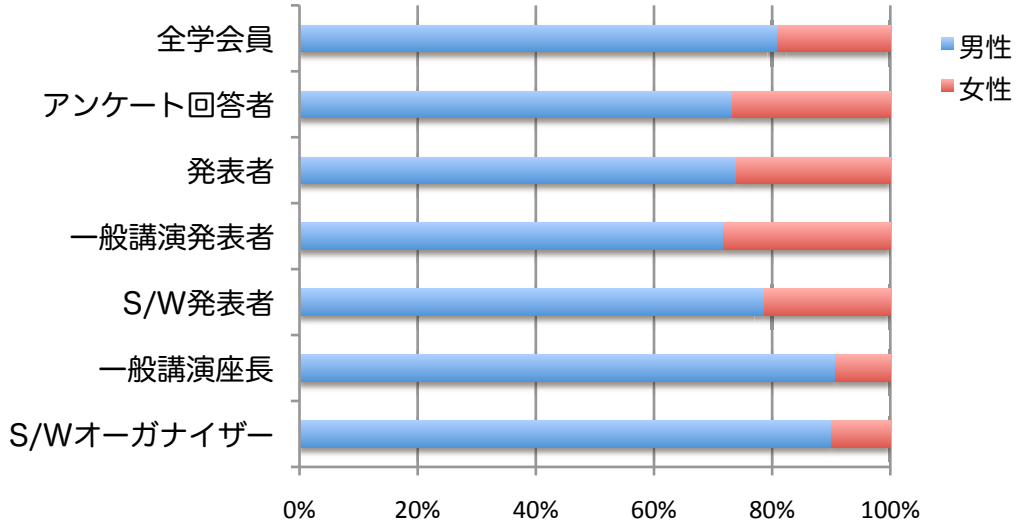
昨年度に続いて，第84回大会の参加登録時にウェブアンケートによる属性調査を行った。本大会では，登録の冒頭のページにて協力を求めた結果，登録者324名のうち165名(51%)からの回答を得た。回答者のうちの女性の割合(27%)は会員全体における割合(19%)よりもかなり高く，その傾向はどの年齢層においても見られた。女性の男女共同参画の問題への関心の高さがうかがえる。

大会での発表等については，全発表者における女性の割合は会員全体における割合よりも高く，シンポジウムやワークショップでの発表においても，一般講演と比べるとやや割合は低かったものの，女性の活動度の高い傾向が見られた。しかし，オーガナイザーや座長での女性の割合はかなり低かった。有職者における女性の割合(15%)の低いことが，この結果にも影響を及ぼしている。

参加登録者 324名
回答者 165名







年齢	回答者男性(人)	回答者女性(人)	回答者の各年齢層における女性比率 (%)	会員の各年齢層における女性比率 (%)
30代未満	30	17	36.1	33.0
30代	26	9	25.7	23.1
40代	36	9	20.0	13.8
50代	21	8	27.6	13.0
60代	6	0	0	8.7
70代以上	2	1	33.3	10.0
	73%	27%		

大会開催時の男女共同参画支援

一昨年まで，大会開催時には，保育室の設置，学内や地域の保育園の一時保育の斡旋などにより，子供を連れた学会参加を支援してきたが，本学会においては，その利用数は限られていた。その改善策として，新たな支援形態を試みている。

昨年に引き続いて，大会への参加に際して，開催地において保育園（大会が斡旋）を利用するのに必要な費用，子供を連れずに参加する場合に家庭等にあって保育に必要な費用，あるいは，通常は自分が行っている介護を委託するために必要な費用，などに対する支援を，発表の有無に関わらず，男女を問わず，提供するというものである。学会参加を促すことを主眼とするものであり，今年度は1名の利用があった。子供をつれて３泊の大会参加ができ，発表と有効なディスカッションができたとの報告を受けている。今後，“本当に必要な支援”を有効に行うため，さらに支援内容の検討を進めていく。

男女共同参画の推進

http://gsj3.jp/danjyo_ks.html

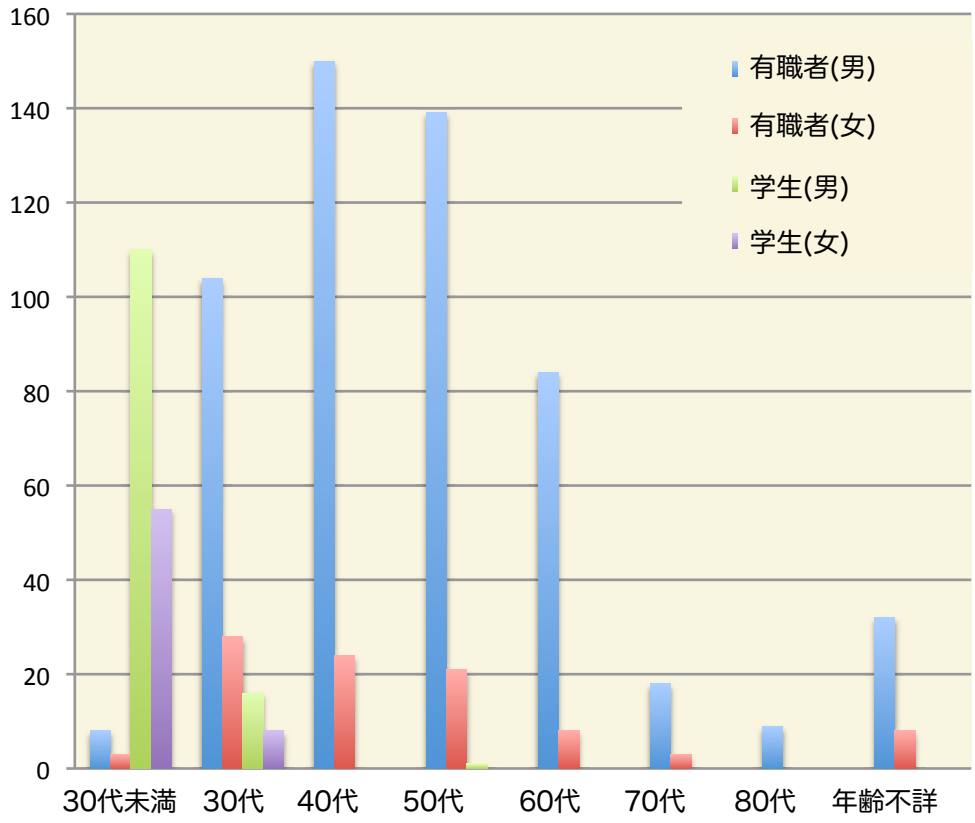
日本遺伝学会では，2007年に男女共同参画推進担当特別幹事をおき，男女共同参画推進特別委員会を設置，同年に男女共同参画学協会連絡会に加盟した。

学会ホームページ内に男女共同参画のページを立ち上げ，随時，活動状況を報告している。学会大会参加に際しての保育や介護への支援，およびランチョンワークショップの開催を継続的に行っている。

男女共同参画推進担当特別幹事
松浦　悦子（お茶の水女子大学）

2012年度男女共同参画推進特別委員会委員
岩瀬　峰代（総合研究大学院大学）
大坪　久子（日本大学）
川岸　郁朗（法政大学）
久原　篤　（甲南大学）
高橋　文　（首都大学東京）
篠原　美紀（大阪大学）
町田千代子（中部大学）

学会員の動向



2012年8月現在，普通会員829名のうち，女性は158名(19%)である。しかし，有職者に占める女性の割合が15%であるのに対して，学生会員では33%と倍以上であり，この格差は年ごとに強まる傾向にある。男女を問わず，若い世代のキャリアアップをいかにサポートするかが，将来に向けての大きな課題であると認識している。

男女共同参画ランチョンワークショップの開催

2008年より「優れた科学の芽を皆でサポートするために」のタイトルの下で開催している。第84回大会では，九州大学男女共同参画推進室と共催し，約70名の参加があった。

日本遺伝学会第84回大会
男女共同参画公開ランチョンワークショップ

9月25日（火） 12:10～13:40
九州大学医学部　同窓会館小講堂

優れた科学の芽を皆でサポートするために
～九州大学の女性支援の実践～

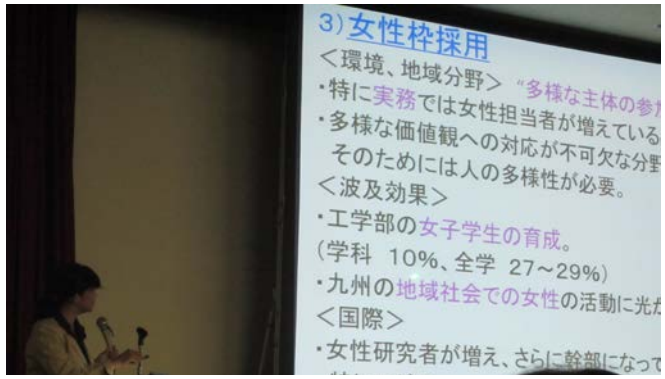
1　はじめに
　五條堀　孝　日本遺伝学会長
2「九州大学における男女共同参画の取り組み」
　樗木　晶子　九州大学男女共同参画推進室長
3「九州大学における女性教員増加策とその成果
　ー『女性研究者養成システム改革加速』事業の実践 ー」
　上瀧恵里子　九州大学研究戦略企画室改革加速事業担当
4　女性研究者支援を受けた立場から
　清野　聡子　九州大学大学院工学研究院環境社会部門
　三浦　佳子　九州大学大学院工学研究院化学工学部門
5　総合討論
6　おわりに
　菊川　律子　九州大学男女共同参画推進担当理事
　中別府雄作　日本遺伝学会第84回大会委員長

先着100名様 ランチ無料
学会員ではない方も歓迎

共 催
日本遺伝学会男女共同参画推進特別委員会
九州大学男女共同参画推進室

今回のワークショップでは，九州大学の女性研究者支援，とりわけ「女性枠」採用について詳しくご紹介いただき，実際にこの支援を受けて着任された先生からもお話をうかがった。

大学として男女共同参画を推進するなかで，「女性枠」採用を進めるにあたってのリーダーシップ，各部局での円滑な実施のための取り組みをうかがい，参加者からは「取り組みの内容がよくわかった。」「支援を受けた方の話が聴けてよかった。」等の感想が，アンケートの回答として寄せられた。



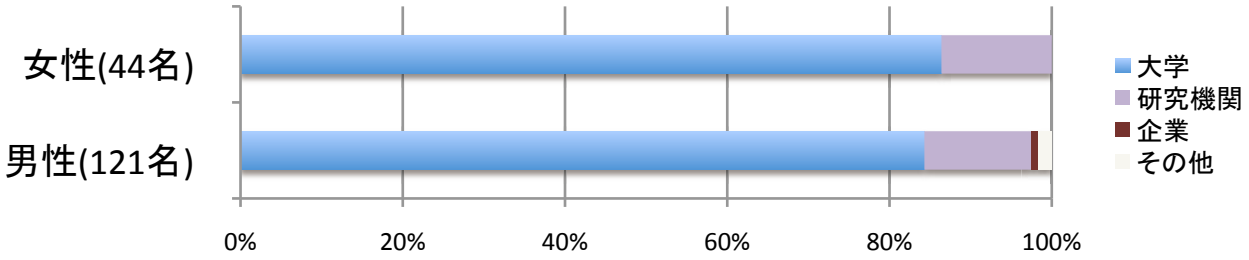
この支援により工学部に採用された教授，准教授の先生から，応募の動機や支援を受けての感想等をうかがった。女性の少ない職場でも，のびのびと活動されていることがうかがえた。若い世代のなかには，このような事業のあることを知らなかった学生，あるいは，「男性枠」もあるべきでは，というような意見も見られたが，実際に極めて厳しい審査を経て優秀な女性研究者が採用されていること，また，その成果を知ることによって，このような取り組みへの理解を広げることができたと思われる。

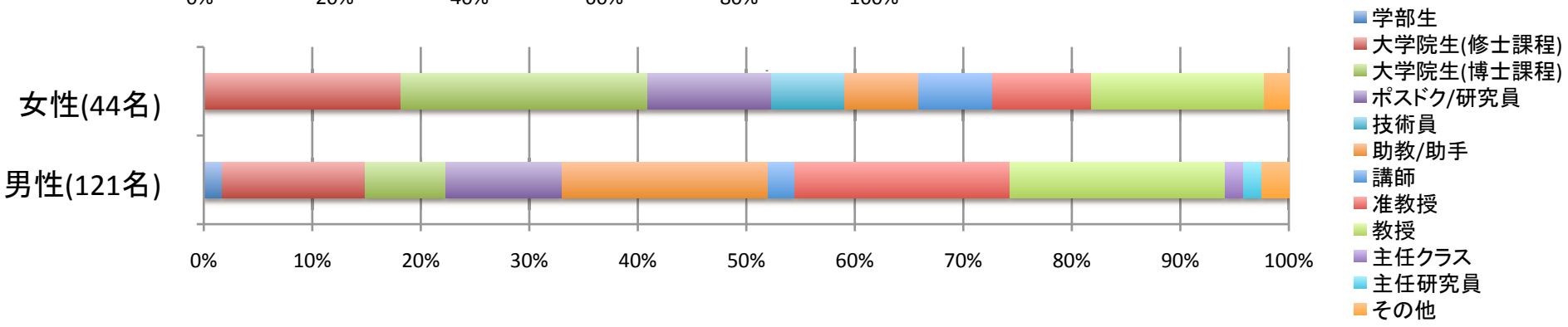
ウェブアンケートによる属性調査の実施

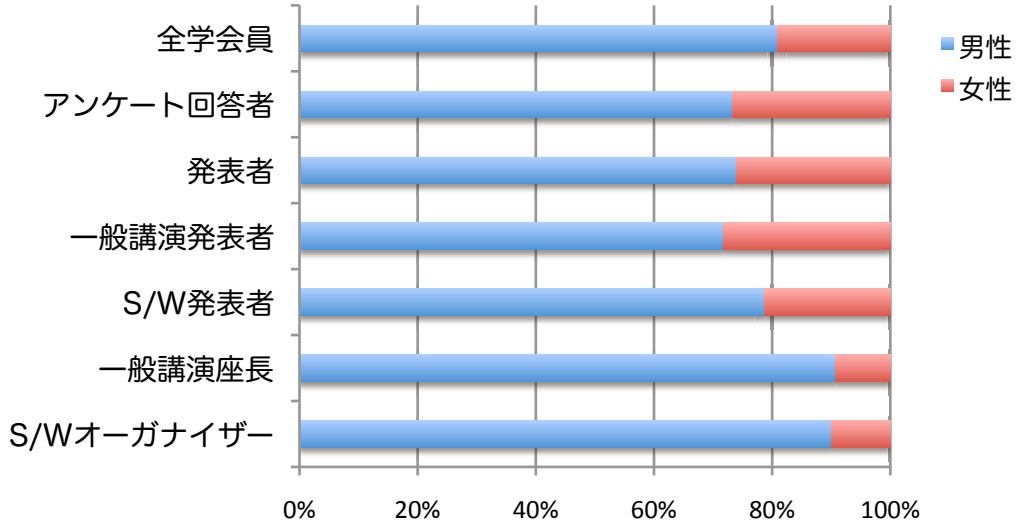
昨年度に続いて，第84回大会の参加登録時にウェブアンケートによる属性調査を行った。本大会では，登録の冒頭のページにて協力を求めた結果，登録者324名のうち165名(51%)からの回答を得た。回答者のうちの女性の割合(27%)は会員全体における割合(19%)よりもかなり高く，その傾向はどの年齢層においても見られた。女性の男女共同参画の問題への関心の高さがうかがえる。

大会での発表等については，全発表者における女性の割合は会員全体における割合よりも高く，シンポジウムやワークショップでの発表においても，一般講演と比べるとやや割合は低かったものの，女性の活動度の高い傾向が見られた。しかし，オーガナイザーや座長での女性の割合はかなり低かった。有職者における女性の割合(15%)の低いことが，この結果にも影響を及ぼしている。

参加登録者 324名
回答者 165名







年齢	回答者男性(人)	回答者女性(人)	回答者の各年齢層における女性比率 (%)	会員の各年齢層における女性比率 (%)
30代未満	30	17	36.1	33.0
30代	26	9	25.7	23.1
40代	36	9	20.0	13.8
50代	21	8	27.6	13.0
60代	6	0	0	8.7
70代以上	2	1	33.3	10.0
	73%	27%		

大会開催時の男女共同参画支援

一昨年まで，大会開催時には，保育室の設置，学内や地域の保育園の一時保育の斡旋などにより，子供を連れた学会参加を支援してきたが，本学会においては，その利用数は限られていた。その改善策として，新たな支援形態を試みている。

昨年に引き続いて，大会への参加に際して，開催地において保育園（大会が斡旋）を利用するのに必要な費用，子供を連れずに参加する場合に家庭等にあって保育に必要な費用，あるいは，通常は自分が行っている介護を委託するために必要な費用，などに対する支援を，発表の有無に関わらず，男女を問わず，提供するというものである。学会参加を促すことを主眼とするものであり，今年度は1名の利用があった。子供をつれて３泊の大会参加ができ，発表と有効なディスカッションができたとの報告を受けている。今後，“本当に必要な支援”を有効に行うため，さらに支援内容の検討を進めていく。